

公募助成「腎不全病態研究助成」研究サマリー

研究 名称	慢性腎臓病患者における赤血球造血刺激因子製剤の鉄代謝と FGF23 への影響 -透析患者での検討-
氏名	本田浩一
所属機関	昭和大学江東豊洲病院 内科（腎臓内科）
<p>ESA 治療中の腎性貧血合併血液透析患者 32 名に対し、ESA 投与前を含めた 6 ポイントで FGF23 を測定し、造血・鉄代謝マーカーの推移と比較した。</p> <p>横断解析 対象患者31例における観察開始時FGF23濃度の中央値は2173.6 (84.3, 15474.0)pg/mLであった。FGF23濃度はCa・P値と相関したが、ヘモグロビン値、TSAT、フェリチン、ヘプシジン25との間には有意な相関は認めなかった。</p> <p>縦断解析 ESA 別に FGF23 の変化と造血・鉄代謝マーカー、IL-6 の変化との関係を比較・検討した。 DA 群 (n=17) では ESA 投与後 TSAT、フェリチン、ヘプシジン 25 が 5 日目をピークに減少し、7 日目にベースラインレベルとなった。FGF23 は DA 投与 3 日目から増加し、5 日目でピークとなり、7 日目に減少傾向となったが、統計学的な有意差は得られなかった。14 日、28 日目の FGF23 値は 7 日目と同等の値であった。 CERA 群 (n=15) では ESA 投与後 TSAT は 5 日目をピークに有意に減少して 7 日目に上昇したが、フェリチン、ヘプシジン 25 は 7 日目まで低下し、14 日目、28 日目の FGF23 はベースラインレベルと同等であった。FGF23 濃度は CERA 投与 3 日目から減少し、7 日目まで有意にベースラインレベルから低下した結果であった。14 日目、28 日目の FGF23 値はベースラインレベルであった。 IL-6 の挙動は DA 群と CERA 群で変わらず、ESA 投与後も大きな変動はなく、2 群間で同様な変化を示した。また、FGF23 の挙動とは有為な関係は得られなかった。</p> <p>本研究では、FGF23はヘプシジン25やTSAT、フェリチンの挙動とは異なることが確認された。観察期間中はCa・P代謝の調節薬に制限がなかったが、DA群とCERA群でCa・P値の推移に有位な変化はなく、また、活性型ビタミンD製剤の使用量は変更されなかった。一方、ESA投与後のFGF23値の推移はDAとCERAで異なり、相反する結果であった。</p>	